

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491000327	事業の開始年月日	平成11年12月21日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	有限会社三上		
事業所名	グループホームみかみ		
所在地	(245-0067) 神奈川県横浜市戸塚区深谷町1234-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計 9 名 ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	令和6年2月21日	評価結果 市町村受理日	令和6年10月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様第一をモットーにしています。個々の状態に合わせた支援を基本にその人らしい生活が送れるよう、又笑顔になってもらえる様に支援しています。職員が工夫を凝らし、利用者様が四季を感じれるようデイルームに飾りつけをしています。年間行事では「流しそうめん」「ミカン狩り」等を行っています。ご家族様も一緒に同行していただきます。職員とご家族とのコミュニケーションを大切にしており、なんでも相談し合える関係づくりに努めています。グループホームで生活すると決めた時からご家族の不安は始まります。安心して見守って頂けるよう努力しています。利用者様の体調管理に気を配り早期発見に努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年9月12日	評価機関 評価決定日	令和6年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR「大船」駅よりバスに乗り、バス停より徒歩1分の所にあるグループホームです。小規模多機能居宅介護と併設した1ユニットのグループホームです。近隣には大型スーパーなどがあり、利便性の良い立地となっています。

＜優れている点＞
利用者の「笑顔」を大切に支援を心がけています。利用者が不平や不満のない生活が送れるように向き合う時間を大事にしています。食事専門職員、入浴支援担当を確保し、日勤帯の職員が集中して利用者に寄り添う時間を作っています。毎日の散歩はもとより、日中行う活動で身体を動かすことにより夜間の睡眠の質を上げ、夜勤帯職員の負担を減らすことにも繋がっています。側で見守ることで快不快か、利用者の心の声を感じ、個別支援を大切にしています。行政からの相談を受け、支援の難しい近隣の独居高齢者に対し、困っているその人の居場所を作るなど、地域の問題解決の場にもなっています。事業所が安心できる場所と思ってもらえるように事業所の前を通る時に「ご飯だけでも食べていきませんか」と必ず声をかけ続け入居に繋がったケースもあります。

＜工夫点＞
職員の意見を大事にし、発言しやすいように促しています。促すだけではなく「気付きBOX」を設置しています。「ちょっと気になったこと」からサービスの質の向上に繋がるとの意識で、匿名で自由に意見が言える仕組みを作り、支援に反映しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームみかみ
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ミーティングでは事業所の理念を掘り下げ具体的なケアについて意見交換をしながら実践できるように共有し、より良い支援につなげられるようにしています。地域密着型サービスの意義を確認しつつ地域との関係性を大切に支援に努めています。	理念を念頭に支援に努めています。みかみに入居している人はもちろん、地域の人の「居場所」作りもしています。一人ひとりのための支援を考え、また「笑顔」を大事にしています。職員が笑顔を意識することで利用者也笑顔になると周知しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣中学校から運動会の観覧の誘いなどもあり利用者様と参加したり、中学校から福祉委員の来訪によりレクリエーションしたり職業体験に来たりして感染対策を考慮して交流を図っています。スタッフは地域の方々に笑顔で声掛け・挨拶することを心掛けています。	近隣中学の職業体験の受け入れや、概ね3ヶ月に一度中学校の福祉委員会の来訪があります。中学校とは継続して長く繋がっており、今ではペットボトルボーリングなど生徒自ら利用者と一緒に行えるレクリエーションを企画してくれています。他にも利用者と一緒に「外食と芋ほり」などを行い、より地域に事業所を知って貰える機会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に根ざしているのを感じるのは、相談件数が多くなっていることです。個人からの連絡も多く、直接契約に結びつかなくとも、地域の方々の相談相手に現在もかかわっています。代表者は地域集まりのアドバイザーや講師として招かれています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営会議を定期的に行ない、その都度状況報告しています。推進会議で出た要望はすぐに実行するように心掛けています。回を増すごとに意見や話がしやすくなっています。	運営推進会議は多くの地域住民や深谷俣野地域ケアプラザ職員の参加があり、地域の情報交換をしています。事業所の空床の相談や、民生委員から「障害者施設を紹介して欲しい」など活発な意見交換の場となっています。ヒヤリハット報告にも「その後の対応ができています」など第三者の意見が貰えています。	今後、運営推進委員会に家族の参加が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは密に連携をとっています。生活保護者の受け入れをしているのでケースワーカーさんとも相談しやすい関係にあり、積極的に協力体制をとっています。	戸塚区や深谷俣野地域ケアプラザなどと日頃より連携し、介護保険改定の情報なども得ています。緊急ショートステイを行い、入居が難しい案件の受け入れを行っています。地域高齢者の困りごとを行政と一緒に考え貢献しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	事業所内に身体拘束適正化委員会を設置しています。年4回実施し身体拘束防止に努めています。委員会で話し合った内容は全職員に周知していますが、委員会メンバー以外の職員にも委員会に参加してもらっています。	年4回身体拘束適正化委員会で、利用者の支援について話し合いをしています。居室での転倒防止、ベッドからの転落防止の支援方法について全職員の意見から決定しています。	転倒しない方法とともに、身体拘束の弊害についても活発な話し合いが期待されます。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止検討委員会を設置し、ミーティングや勉強会を年に1回開催し職員への理解を深めると共に防止・遵守に努めています。また適宜、各々の対応について不安が軽減できるよう管理者へ相談しやすい環境作りに努めています。	虐待は知識不足だと起きてしまうものと認識し、研修を行っています。資料を使った座学だけではなく、利用者一人ひとりの支援方法を現場で細かく伝えています。声のかけ方、性格、生きてきた経歴を細かく伝えることで、より利用者を理解し個別支援を行うことが出来るようにしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は成年後見制度について理解しており、必要と考えられる利用者や家族に勧めています。またご家族の要望などにも話し合いを持っています。それらの内容を職員に説明・周知に努め支援に心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定などの際についての内容説明は、十分ご理解いただけるよう、ご利用者ご家族に説明させていただいています。管理者・ケアマネに気軽に話し合いをもてるような体制にしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員がご利用者とのコミュニケーションを大切にしており、要望などがあれば、すぐに管理者、ケアマネに相談できる体制にしています。それらの要望は真摯に受け止め運営に反映させます。	既読付きアプリを活用し、小さな事でもこまめに家族へ報告することで家族の安心につなげ、要望を言いやすい環境を作っています。アプリだけでなく、夏祭りなど家族が参加できる行事を行うことで遠方の家族が来訪し、対面で話ができるような工夫もしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月第4金曜日に全体ミーティングを行い、意見交換の場を設けています。話し合った内容は必要に応じて変更など行い反映しています。	職員は、どんな提案や企画も受け入れてくれると認識しています。「家族に会える場所を作りたい」という夏祭りの提案も実行しています。入浴更衣時の転倒防止策で「脱衣所に着替えを入れるタンスを設置する」など、職員の意見は「まず試してみる」「上手くいかない場合にはまた考えよう」とし、現場で働く職員の意見を大事にしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の職員の実績を把握し、給料に反映しています。又、各スキルアップのためのインフォメーションを流し、向上心を持てるような環境を整えています。更に役割りを分担する事で職員一人ひとりがやりがいの持てる職場環境を目指しています。	食事専門職員や入浴支援だけを行う担当制など、負担のかかる支援を日勤担当とは別の人材を確保することで、利用者と向き合う時間を大切にしています。休憩室にはマッサージチェアを2台確保し、月2回職員向けにピラティスの講師を呼ぶなど、職員の体の負担を軽減する工夫をしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	実習型雇用・中高年トライアル雇用の採用をし、実習計画に沿って指導にあたり、ケアの向上を図っています。新人スタッフには熟練スタッフが指導にあたり、個々に合った研修を勧める等スキルアップに繋がっています。	スキルアップし、給与や手当に繋がる資格取得について、法人代表が声かけしています。外部研修も推奨しています。研修受講報告書で振り返り、内部研修を行い、職員全員で情報の共有をしています。レクリエーションなどの苦手な支援にも検索方法を伝え、職員自ら検索し学び実行することで自信に繋がるようにしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交換研修に申し込みました。他事業所の活動を見学することにより自身を振り返り、現場で活かせるよう職員の質の向上に努めてます。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者とのコミュニケーションを図り職員との信頼関係を築けるよう心掛けています。本人の思いに耳を傾け不安のない生活を送れるよう寄り添う関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族がどのような問題点を抱えているのかを十分な話し合いの中で捉え、問題解決のためにどのようなサービスができるかを一緒に考え信頼関係を築いています。面会時に話やすい環境を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用前に本人・ご家族との面談・施設見学などを実施しています。本人やご家族がどんな思い・支援を望まれているか確認しながら都度必要なサービスにつなげるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お互いが協力しながら穏やかな生活が送れるように状況に応じた関係づくりに努めています。それぞれができる得意分野を把握しセッティングや工夫を行いながら支援をしています。日々の生活の中でご利用者から職員を気遣う声掛けなどもあり和やかな環境を築けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人の日頃の状況や思いを常にご家族と共有しながら信頼関係を築いています。家族と職員の交流が徐々に重なり利用者を支えていく協力関係が出来ています。またご家族の来訪時には本人だけではなく、本人が日頃交流のある他利用者との関係づくりにも心掛けています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の要望に添った支援に努めています。時には昔を思い出し電話したいと希望された時はご家族への確認をしつつ連絡したり、年末年始に親戚の家に泊りがけで外出したりとご家族や本人の希望に寄り添いながら働きかけています。	利用者にとって大事な家族との関係を継続させ「家族との橋渡し」になるように支援をしています。外食レクリエーションの帰りに家族の家に短時間でも立ち寄り、顔を見せる機会を作っています。眼鏡が壊れた利用者が、他の利用者家族が営む眼鏡店を利用するなど、利用者と家族が繋がるきっかけを常に意識しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆で楽しく過ごせる時間やレクリエーションを活用してご利用者の関係を良くする場面づくりに心掛けています。日々の生活の中で感情の変化に注意しながら見守り利用者同士の関係がより良くなるよう働きかけています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終わってもご家族からの相談などに耳を傾け継続的な支援に心掛けています。事業所で亡くなられたご利用者のご家族が来訪されており職員と会話される事で笑顔になられたりと良い関係性に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常にご利用者とコミュニケーションをとり、希望・意向に添えるように努力しています。ご本人の希望を聞き取り、ご家族様と相談し可能な限り本人の意向に添えるよう支援しています。	利用者が話しやすく、不満を感じない対応を心がけています。そのため、利用者一人ひとりの個性や状況を見極めたコミュニケーションを取っています。会話が不自由な人には「ゆっくり」、怒りやすい人には「顔を見ながら様子を察して」、控えめな人には「話の輪に誘う」などの配慮をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	他業者から引き継ぐ場合も、これまでのサービス利用の経過を把握し、ご利用者の生活歴も含め理解を深めています。ご本人の気持ちを重視し、出来る限り生活環境が大きく変わらないよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の変化など職員が常に共有できるように業務日誌とは別に連絡ノートを作り全体での把握に努めています。些細な事でも報告・連絡・相談を心掛けサービスの向上に働きかけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的な聞き取りなどを実施しその中でケアについての話し合いを行い反映させるようにしています。日々の記録などを見直し現状にあった介護計画へ変更・作成に努めています。	本人及び家族の希望や、気になる事は日常的、または介護計画の見直し時期など定期的に把握し、グループホームでの生活が過ごしやすいか確認しています。職員とケアマネジャーはモニタリングやカンファレンスを通じて日常的に情報共有を行い、介護計画へ反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	必要な情報が一目でわかるように項目の書き方を統一しました。また、個別記録の書き方についても、管理者、ケアマネが適時確認し、職員目線の記録にならないようにご利用者の気持ちを記録するように指導することで、支援につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われる事なく、ご利用者やご家族の要望に出来る限り応えられるよう努力しています。また、要望を待つばかりではなく、必要と思われることがあれば、こちらからも提案させていただきます。常に思いやりの支援を心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	中学生の職業体験の受け入れや、福祉委員会の生徒さんが来訪してくれることでご利用者が地域とのつながりを継続できるように支援しています。ご利用者の散髪なども近隣の理美容室を利用してもらっています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の集団受診の他に、週1回の訪問看護、24時間対応看護で、しっかりと連携がとれています。利用者、ご家族が共に安心できる体制になっています。 ご家族の希望があれば、医師より直接説明していただくこともあります。不安軽減のための医療連携に努めています。	医療連携にて適切な医療を行っています。かかりつけ医の受診は定期的に行い、緊急時やかかりつけ医では対応が難しい時には、協力医療機関にて対応しています。毎週の訪問看護ではバイタルチェックや利用者個々の要望に対応しています。服薬管理は薬局の指示に従い、薬局が用意した薬剤を職員が利用者に直接手渡し、飲み込むまでを確認し誤薬を防いでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の変化や気づきを訪問看護師に伝え、随時適切な指示・判断を仰ぎ、ご利用者の身体安全を第一に努めています。介護職員はちょっとした疑問も気軽に相談できる関係にあり連携を密にご利用者の健康管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるように詳細な介護サマリーを用意し病院に提供しています。地域連携室を通してご利用者の入院中の様子や病院側からも入院状況及び退院に関して事前に情報提供などをして頂いております。ご利用者の状況に応じた支援に結び付けています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所開始時から、本人ご家族と終末ケアについて話し合い、相互理解を結んでいます。事業所が対応できる支援を説明し、本人やご家族の意向を踏まえた方針をチームで話し合い納得した最期が迎えられるよう支援に取り組んでいます。	家族の納得が得られる終末期介護を心がけています。入居契約時に終末期介護について対応方針や内容を説明し、実際の終末期介護時は介護の内容や体制など家族の同意を得ています。また、終末期ケア移行時には職員へその旨を知らせ、職員の納得を得ながら、経験の浅い職員には付き添いながら介護に当たっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡の仕方もわかりやすく作り直し見やすい場所に掲示してあります。具体的な応急処置は看護師の指示を仰いでいます。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災報知器の使い方の実地訓練。また、安全に避難できるように、消防職員による消防訓練を年に2回開催しております。利用者・職員が安全に避難できるよう努めています	年2回の消防訓練を消防署の立ち合いの下で行い、利用者全員が避難しています。豪雨で近所の小さな川の清掃不足で水はけが悪く川が溢れたときにも、日頃の区役所や自治会と密な連携を行っているため、迅速な改修対応となっています。	地域との災害時の支援について話し合いが持てることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の尊厳を大切にしています。新人研修時には言葉遣いや声掛け、排泄、入浴時など自尊心を傷つけない対応をすることを強く伝えている。本人の気持ちを考えたケアや自ら決定しやすい声掛けを心掛けています。	利用者の言動を「否定しない、納得するまで話を聞く」と、人格を尊重した応対を心がけています。新人教育では、座学やOJTによる研修と共に、利用者の人となりを知って敬意を持って介護に当たってもらうため、利用者の人生の背景となる経歴や人柄、趣味などの「利用者の人生紹介」を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者の状態に合わせて一人ひとりが自分で決められるような場面づくりを心掛けています。複数の選択肢を提案するなど工夫をしたり、本人の思いが表現できるように働きかけをしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者の体調を考慮しつつレクリエーションの参加を促しています。個別で、散歩に行きたい方には職員付き添いにて対応しています。本人の希望に出来る限り支援できるよう心掛けています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族の支援により、みなさん身ぎれいにされています。又、事情によりご家族からの支援を受けることができないご利用者にはスタッフや知人からの寄付により、その人らしい装いができるようにしています。一人ひとりの個性を尊重しその人らしさを保てるようなお手伝いをしています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	外部委託食材を使用しています。ご利用者には包丁やピーラーを使い野菜を切って頂いています。食器洗いや食器拭きなど、ご利用者と職員が話をしながら一緒に行ってもらってます。	ご飯、みそ汁は事業所で用意し、その他の食材や調理は外部委託をしています。事業所に元調理師の職員がいるため、調理や配膳は丁寧で食欲を促す工夫を行っています。利用者が刻んだ野菜をみそ汁の具材にしています。残食がある場合は、何を残したのかを確認しています。食事レクも「お好み焼き、たこ焼き」など利用者の希望に応じて、具材の調達から調理まで一緒に行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分チェック表にて一日の食事量や水分量を把握するようにしています。1日の必要量に届くように努力しています。また、必要があれば水分にトロミをつけます。食事に関しては個人の状態に合わせた形態にし、ソフト食にも対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食事後に声かけをしケアに努めています。また、介助が必要な方には職員が介入し、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック24時間表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。なるべくトイレでの排泄をするよう、職員一同声かけ誘導をしています。ふらつきなどみられる場合には本人への了承を得て見守りや一部介助にて支援しています。	利用者の衛生管理に気を配り、毎朝トイレ使用後は陰部洗浄を行っています。排泄の失敗防止や自立化促進のため、タイミングを見て定期的に声掛けを行っています。トイレ室内に失敗を防ぐ使用方法の貼り紙をすることで、利用者の注意喚起を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	天気の良い日には散歩に行くようにしています。午前と午後にレクリエーションなどで体操を取り入れたり、飲み物などの工夫をし予防に努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の場は、スタッフと一対一の空間なので穏やかに入浴を楽しまれています。希望があれば好みのシャンプーやリンス、ボディークリームを使って頂きます。入浴剤を数種類用意し、お湯の色や香りを変えて楽しんでいただいています。入浴日以外は状況に応じて足浴なども取り入れています。	重度化によるシャワー浴の場合でも体が冷えないよう足湯やバスタオルの上から湯ををかけるなど体が温まる工夫をしています。入浴後の着衣時の転倒防止に努めています。着替えの忘れ物などで利用者から目を離すことが無いように、前日の夜勤者が着替えを脱衣所の収納タンスに設置し、安心した入浴時間になるように工夫しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの習慣、その日の体調に合わせ、ゆっくり過ごせるようにしていただいています。部屋の温度・調光にも配慮し、快眠につなげていますが出来る限り日中は活動量を増やし安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者の服薬の管理は薬局さんをお願いしています。服薬の目的や副作用をいつでも確認することができるように薬の情報書類をファイルで保管しています。服薬時は必ず手渡し見守り・飲み込み確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節のイベントを開催し、準備からご利用者と一緒に楽しんでいます。昔から読んでいた新聞を事業所に配達してもらう等、個々の支援にも力を入れています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望により買い物に行ったり、季節ごとにイベントを企画し外出の機会を設けています。お弁当を持ってお花見に行ったり、外食レクを行ったりまたミカン狩りなどその時々で季節を感じてもらえるようにしています。	天気の良い日は毎日、外気浴や日光浴を行っています。日光浴は日の当たるベランダで、外気浴は近所の散歩を10分以上行っています。時には、近所のスーパーマーケットなどへ買い物にも行きます。個人の外出希望であるお墓参りや温泉などにもできる範囲で応じています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に行きたいとの要望時は職員が付き添い行っています。中々買い物への興味が薄れていく傾向があるので、事業所のお買い物などできるだけ声掛けし外出を促し社会性の維持につなげています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	友人や遠く離れた親戚など電話が来たりすときは本人へ繋いだり、本人が電話をかけるなど自由にできるよう支援しています。ご家族から届いた手紙に返信しています。字を思い出す事ができず、悩んでいる時は職員が見本を書いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	イベント時の写真をフロアに飾ることで、利用者同士の交流のきっかけを作っています。季節ごとにご利用者と手作りの装飾品などを飾ったりと工夫しています。トイレは張り紙をする事により自力にてできるようにしています。	居室で孤独にならずリビングで過ごしてもらえるような声掛けを工夫しています。利用者との会話から「好きになってもらえるかもしれない」趣味を見つけ出した事例もあります。利用者が不安にならず、リビングで安心して過ごしてもらえるように、ゆったりとした支援に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	状況に応じた工夫を取り入れその都度居心地の良い場所を提供しています。日当たりの良いエントランスには花を飾ったり、ご利用者の作品を飾ったりして空間を作り自由に使用して頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族の意向を大切にしています。思い出の写真や愛着のある物を居室に置くことで、居心地の良い空間をつくる事に配慮しています。	標準の備え付け品として、エアコン、ベッド、照明器具を設置しています。安全対策としてベッドからの転落防止のため、センサーを使用する場合もあります。重度化した利用者の部屋の入口には、暖簾を使用し内部のプライバシーを確保しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	今出来る事を続けられるように、手すりの取り付けや風呂場で滑らないような工夫をし、安心して過ごせるよう心がけています。またソファを置き椅子の変化や冬場は足元の寒さを和らげるようコタツ等も取り入れ環境作りに努めています。		

2024年度

事業所名

作成日：R6年 10月 28日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議に家族の参加がない	ご家族に参加をお願いするようにする	毎月送るご家族の手紙の中に運営推進 会議の開催日を伝え参加協力をお願い する	6ヶ月
2		ご利用者様の転倒防止についての対策 の検討が必要	施設での身体拘束についての取り組み を徹底していく	職員全員が身体拘束についての知識を 高めると共に適切なケアを実践できる ように研修を行い、委員会で話し合い を続けていく	3ヶ月
3		防災訓練や災害対策について地域住民 の方との話し合いが行われていない	地域と連携し災害が起こった際に協力 を得られるようにする	日頃行っている防災訓練に参加協力し てもらい、いつ何時起こりうる災害に 対応できるようにする	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月